



2023年(令和5年) 9月20日 水曜日

発行所 中部経済新聞社 〒450-8561 名古屋市中村区 名駅4-4-10
編集局 052(561)5212
販売部 052(561)5216
広告部 052(561)5213
事業部 052(561)5675
総務部 052(561)5215
東京支社 03(3572)3601
©中部経済新聞社2023
購読のお申し込み 0120-605-123

地元製造業を伴走支援

経営コンサルのセレンディップHD



白金鍍金工業の取締役として支援に当たる梅下氏(右)と笹野社長

2年で黒字化も実現

経営コンサルディングのセレンディップ・ホールディングス(HD、本社名古屋)が地元製造業の伴走支援を軌道に乗せている。2010年代以降、事業承継に課題を抱える企業に出資し、役員を送り込み支援を手掛けてきた。支援先は車の内外装部品製造の三井屋工業(豊田市)や自動変速機(A/T)構成部品生産の佐藤工業(あま市)など9社に上る。単に目先の収益を追うだけではなく、企業風土の改革にも踏み込み、支援先が持続的に成長できるよう努めている。(勝又佑記)

自主性

「打ち合わせしましよー」。自動車部品などのめつきを手掛ける白金鍍金工業(名古屋)の笹野真矢社長(37)と梅下翔太郎取締役(38)の間ではフラットな関係で会話が進む。セレンディップHDのグループ企業と新生企業投資(東京都)との共同ファンドが

今夏、白金鍍金工業に出資。梅下氏はセレンディップHD執行役員だ。

「仮に上から改善策を押し付けても、従業員の方が思考停止してしまう。それよりは皆で考え、結論を導き出すことのほうが大事。土台づくりをサポートしたい」と強調する。

一方の白金鍍金工業は自前の力のみでは行き詰ることを痛感していた。自動車部品のめつきの受注が減少。エネルギーや材料高騰によりコストがかさんでいたが、製品の価格転嫁が思うように進まなかった。同業が次々と倒産する中、手を打ちあぐねてい

た。笹野社長は「社外の目を入れることで、自分たちの課題を改善できると感じている」と話す。今後はセレンディップHDの力を借りて、自動車分野以外への拡販を進めたい考えだ。

風通し

10月、佐藤工業の株式を買い出した。まずは経営の「方針カード」を全従業員に配り、経営方針を共有。過剰在庫や不良品などの問題点を従業員に伝えた。製造現場では電子データを活用して正確に不良原因を究明。それまで不明瞭な「カン・コツ」に頼っていた改善からの脱却を図った。

「これは危ない」。15年企業風土改革に向けて動き出した。まずは経営の「方針カード」を全従業員に配り、経営方針を共有。過剰在庫や不良品などの問題点を従業員に伝えた。製造現場では電子データを活用して正確に不良原因を究明。それまで不明瞭な「カン・コツ」に頼っていた改善からの脱却を図った。

一連の改善により、17年11月期に黒字転換した。半導体不足に伴う車両生産の変動などの影響を受けても直近22年11月期まで6年連続で黒字を確保できた。

支援先9社の実績は、2年以内で黒字化または、利益成長につながっている。ただ、自動車業界は大きな転換期を迎えており、電動化などに対応する必要性に迫られている。今後の成長を支える事業を育て、持続的な成長を後押しできるかが今後の焦点になる。